秋山郷

越後・信州

散策絵図

さんさくえず

鈴木牧之とあるく――。

前倉（まえくら）

秋山記行では

【現・8戸】当時9戸。大岩に3メートル余りの梯子を真っ直ぐに掛け渡してある。眼下の橋は、何と長い木を2本、両岸の岩に掛け渡し、間に枝木を少々付けただけのものであった。

集落の上部に苗場山のビューポイントがあり、秋山郷の渓谷が一望できる。「前倉橋」は新潟の橋五〇選に選ばれており、国道四〇三号に架かる赤いアーチが印象的である。紅葉の季節この橋から眺める渓谷は絶景である。

苗場山と前倉集落

蜂蜜生産販売…「生蜂園」

見倉（みくら）

秋山記行では

【現・4戸】当時3戸。家の辺りには木も茅もなくすべて畑にしている。九月の半ばというのに、すっかり作物を刈りつくし、畑には所々に大小の岩が出ているだけである。

かつて畑として利用されていた所が放置され、現在シラカバ林になっている。その林床には「春植物」のカタクリが群生し、早春の里山をピンクのじゅうたんで埋め尽くす。また、「風穴」と新潟県最大級のトチノキ「見倉の大栃」で知られ、「小松原湿原」への登山口として来訪者が多い。

昔ながらの見倉集落

大栃の木

結東（けっとう）

秋山記行では

【現・3戸】当時2戸。門口には、3～4斗も入る大きな桶と栃の実を潰している。家の周りには、要や榧を干して並べてある。

見倉橋

倉橋はなだらかな6倉と結東を結ぶ最重要生活の橋である。

宿泊施設…「かたくりの宿」「萌木の里」
手打ちそば（要予約）…「六田里」

石垣田

清水川原（しみずがわら）

秋山記行では

【現・3戸】当時2戸。門口には、3～4斗も入る大きな桶と栃の実を潰している。家の周りには、要や榧を干して並べてある。

山里らしい「キニォ」

歴史を感じるお堂

逆巻（さかさまき）

秋山記行では

【現・4戸】当時4戸。見上げると岩石はそびえ立ち、見下ろすと深い渕の水は藍色によどみ、その名の通り、水が逆さまに渦を巻く。両岸の光景はとても筆では書き表せない。素晴らしいかたちの木、不思議な格好の岩、川上から川下まで目を奪い、いつまで見ていても見飽きない。

「猿飛橋」は国道と逆巻集落をつなぐ橋で、中津川で最も狭い所でしかも断崖の上にかかっている。その眺望は新潟の橋五〇選に選ばれている。

宿泊施設…「川津屋」
お土産…「したみちや」

猿飛橋

穴藤（けっとう）

秋山記行では

【現・7戸】当時の戸数不明。鈴木牧之は清水川原を通過し、時間がなかったため穴藤（下結東）へは訪ねられなかった。機目で眺めながら後ろ髪を引かれる思いで帰路に付く。

古木の風格充分。樹齢三六〇年にもなるメグスリノキがある。

町の天然記念物であるメグスリノキは、日本でこの自生し、その名の通り眼に良いとされている。室町時代末期にこの木から目薬が作られたことから「メグスリノキ」の和名がついている。

穴藤の吊り橋

見玉（みだま）

秋山記行では

【現・35戸】当時34戸。「日光に親孝行がおり、父親の両眼がつぶれた時、見玉不動は他にない素晴らしい仏様だと伝え聞き、この地へ参詣。17日の断食をして祈り国に帰ると長年わずらっていた父親の眼は見えるようになっていた。」

「見玉不動尊」天台宗のお寺で、本山は比叡山延暦寺。本尊・不動明王は眼病に特に霊験があり、昔から多くの眼病治癒の逸話が残っている。

お土産…「たかはし」「わらび」

見玉不動尊

清らかな水

中ノ平（なかのだいら）

秋山記行では

【現・0戸】当時2戸。畑には粟が作られている。大きいのと小さいのとがあり、小さいのは小さいうな穂が出ている。大きいのは猫の尻尾のようである。粟にもいろいろ種類があることがわかった。

現在は民家はなく、ログハウスや山小屋が建てられている。周辺のシラカバ林は、畑の名残であろうか。新潟県民俗学会の創始者「小林存」は、前倉から対岸を望み「五戸の里に女もあるか子もあるか日当たる軒に赤きもの干す」の句を詠んだ。（句碑は見倉に設置）

大赤沢（おおあかさわ）

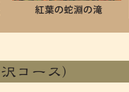
秋山記行では

【現・19戸】当時9戸。若い時と違って苗賀沢になった。苗は栃や橡の実を沢山食べた。今では、粟や稗を多く食べる家が出てきた。これは困ったことだ。（年齢80歳の物知りの翁に聞いた話）

日本百名山の一つとして知られる苗場山（標高二千百四十五三メートル）の大赤沢登山道（健脚向き）の入口であるまた、大蛇伝説

木工芸品・食堂・お土産…「山源木工」
食堂・お土産…「へいけ茶屋」

紅葉の前倉橋



紅葉の蛇淵の滝

は長野県境の破黄川が中津川に合流する地点にある。

苗場山（小赤沢コース）

3合目登山口（約1時間20分）→ 5合目（約1時間30分）→ 8合目（約1時間）→ 苗場山 山頂（約50分）

3合目登山口（約1時間）→ 5合目（約1時間）→ 8合目 → 苗場山 山頂

苗場山（大赤沢コース）

1合目登山口（約1.5時間）→ 3合目（約3時間）→ 猿面峰（約2時間30分）→ 苗場山 山頂

1合目登山口（約1時間）→ 3合目（約2時間）→ 7合目猿面峰（約2時間）→ 苗場山 山頂

苗場山（小赤沢～苗場山～霧ノ塔～小松原湿原～見倉コース）

3合目登山口（約1時間20分）→ 6合目（約1時間30分）→ 8合目（約1時間）→ 苗場山 山頂（約40分）→ 雷清水（約20分）→ 日陰山（約1時間）→ 霧ノ塔（約20分）→ 岐川コース分岐（約30分）→ 神楽ヶ峰 → 小松原避難小屋（約30分）→ 中ノ田代分岐（約1時間30分）→ 金城山（約1時間30分）→ 風穴駐車場

秋山郷へのアクセスマップ

お車で…

東京から→
関越自動車道、塩沢・石打ICよりR353号を十二峠経由し、山崎交差点を津南方面へ左折、R117号を直進35分津南へ。大割野交差点を左折、R405号を直進秋山郷へ。

大阪から→
名神自動車道、小牧JCT⇒中央自動車道、岡谷JCT⇒長野自動車道、更埴JCT⇒上信越自動車道、豊田・飯山ICよりR117号を津南・十日町方面へ50分津南へ。大割野交差点を右折、R405号を直進秋山郷へ。

電車で…

東京から→
上越新幹線、越後湯沢駅下車。森宮野原行きバスに乗り津南町役場前下車。和山温泉又は小赤沢行きバスに乗り秋山郷へ。

大阪から→
東海道新幹線、東京駅乗り換え、上越新幹線、越後湯沢駅下車。森宮野原行きバスに乗り津南下車。和山温泉又は小赤沢行きバスに乗り秋山郷へ。

※森宮野原行きバスや和山温泉・小赤沢行きバスは、運行本数が非常に少ないため、時刻など事前確認が必要です。

H 鳥甲山（和山温泉～鳥甲山～屋敷温泉）

和山温泉 →（約1時間）→ 和山登山口 →（約3時間）→ 白くら →（約2時間）→ 鳥甲山 山頂
屋敷温泉 →（約10分）→ 屋敷登山口 →（約3時間40分）→ 鳥甲山 山頂

（注）登山コースの所要時間は大まかな目安です。登山の際は市販の登山地図等を参考にして下さい。　一 遊歩道・登山道

※現＝２００７年４月現在の戸数。
※見玉集落は、秋山郷の入り口としてこのパンフレットに記載。

夏でも雪が残る鳥甲山

（標高 2037m：日本二百名山）

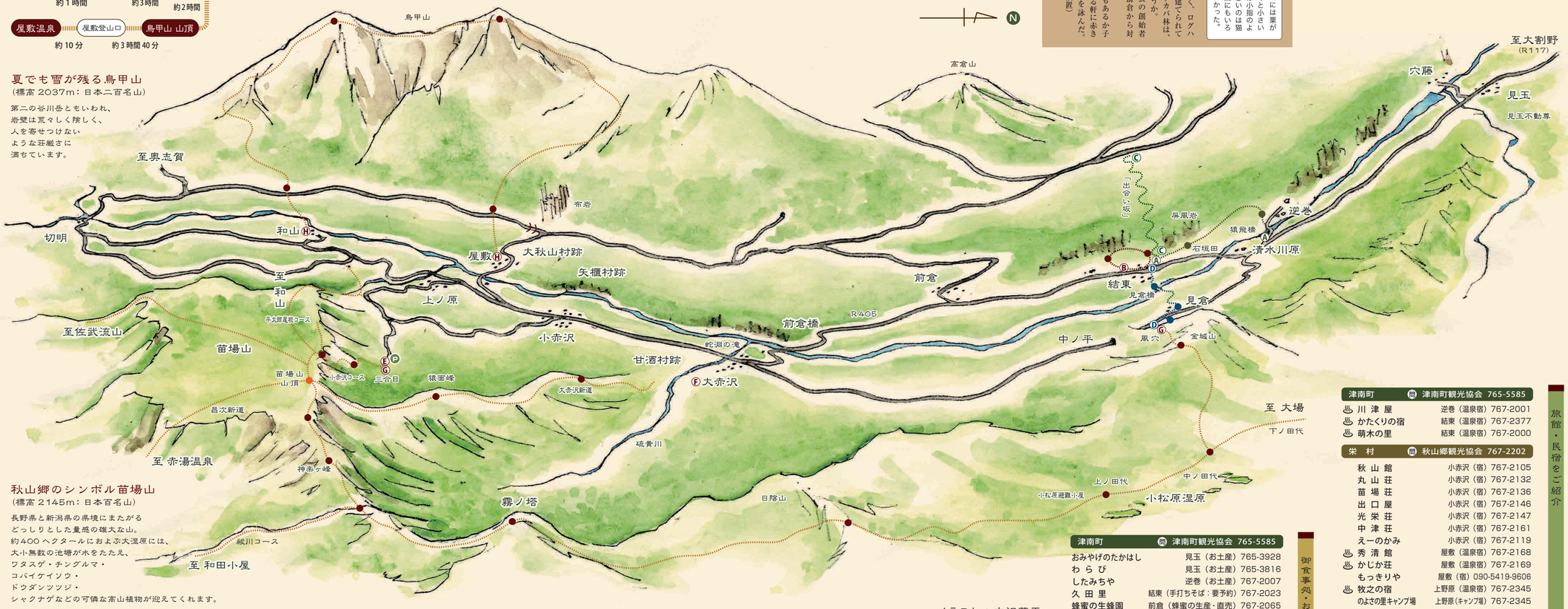
第二の谷川岳ともいわれ、岩壁は荒々しく険しく、人を寄せつけないような荘厳さに満ちています。

秋山郷のシンボル苗場山

（標高 2145m：日本百名山）

長野県と新潟県の県境にまたがるどっしりとした量感の雄大な山。
約400ヘクタールにおよぶ大湿原には、大小無数の池塘が水をたたえ、
ワタスゲ・チングルマ・
コバイケイソウ・
ドウダンツツジ・
シャクナゲなどの可憐な高山植物が迎えてくれます。

イラスト：中沢英正



A 石垣田トレッキングコース（約1時間）

猿飛橋 →（約10分）→ 逆巻温泉 →（約30分）→ 石垣田 →（約20分）→ かたくりの宿

B 萌木トレッキングコース（約1時間）

萌木の里 → ブナ林 → 萌木の里

C 出会い坂トレッキングコース（往復約1時間30分）

かたくりの宿 →（往復約90分（急な上り坂））→ 頂上 → かたくりの宿

D 見倉トレッキングコース（片道約1時間40分）

かたくりの宿 →（約15分）→ 見倉橋 →（約35分（急な上り坂））→ 見倉集落 →（約30分）→ 栃林 →（約20分）→ 風穴

切明（きりあけ）

秋山記行では

【現・3施設】当時温泉施設1軒、1808年頃貸作村（長野県栄村）の鍋田三左衛門が湯本村（切明）を開く。

切明河原温泉

最奥の秘湯へ、たどり着く。秋山郷の奥座敷、切明は湯量が豊富な温泉が自慢。河原の石をのけて砂を掘ると、下から熱い湯がこんこんと湧き出てくる。適温になるまで川の水を引き込めば、自作の野趣風呂のできあがり。中津のせせらぎと、せまりくる山々に抱かれ、河原の露天風呂につかってみては。切明から秋道を通って奥志賀へ抜けることができる。

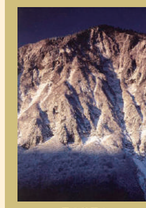
中津川の紅葉

和山（わやま）

秋山記行では

【現・5戸】当時5戸。村の近くだけ山の畑が広々しているところに出た。見渡す限りの茅野の中に、朽木の大木が1本また1本と高く聳え立ち、蛇柱を立てているのような風情である。その姿を変える様はいつ見ても飽きることはない。

江戸時代、秋田のマタギによって発見されたという和山温泉。旅館、民宿ともに温泉がひかれ、栃川高原には、キャンプ場もあり高原の風を体感できる。眼の前に大迫力の鳥甲山がそびえ立つ、秋山郷屈指の絶景ポイント。



雪の鳥甲山

上ノ原（うえのはら）

秋山記行では

【現・13戸】当時13戸。どこもかしこも秋山は、食物も飲み物も里よりいい。いしれる。上野原からは、そびえ立つ急峻な鳥甲山の雄姿を見ることができる。

千変万化の景観に酔

鳥甲山全景

鳥甲山は、鷹が大きな羽を広げたような、まさに名山と呼ぶにふさわしい山で、三つのバーンの山肌の色が異なる。四季によって、その姿を変える様はいつ見ても飽きることはない。

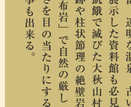
天池の紅葉

屋敷（やしき）

秋山記行では

【現・35戸】当時19戸。赤倉山（鳥甲山）はこの屋敷の持山という。この秋山第一の霊山、先へ行くほど尖り、下は三抱えほどある石鉾と呼ばれる岩石が、頂上しんに立つ岩の横に斜めに立っている。

豪雪とともに生きた歴史。小赤沢をぬけ、十五分程歩くと、右下に屋敷が見える。平家の隠し湯屋敷温泉は湯量が豊富、透明な温泉。古い秋山郷の暮らしを示す民具を展示した資料館も必見。また散歩がてら集落を抜け、「布岩」で、自然の厳しさを目の当たりにする事も出来る。



さくら

紅葉の布岩

小赤沢（こあかさわ）

秋山記行では

【現・54戸】当時28戸。手足の動く子供は、みな栃の実を拾いに行く。旧暦の十月から春までは栃の郷を食べる。そこへ粟や稗、小豆を少々混ぜると味が良い。里へ出して物々交換するものは、粟、稗、荏ゴマ、木耳、木鍬、桂の板、白木のお盆、秋には干した茸、科の木であんだ縄などである。

平家落人伝説の里。牧之が泊まった福原家が現存する小赤沢。例年六月一日には苗場・鳥甲・佐武流山の山開きが行われ、苗場山の登山口でもある。村の文化財である、ユモトマユミの大木、黒駒太子堂、保存民家などの見どころも有るが、まずは総合観光案内や資料室見学ができる。秋山郷の総合センター「とねんぼ」を尋ねるとよい。

初春の苗場山

苗場山山頂紅葉

御食事処・お土産・その他をご紹介

市外局番（０２５）

津南町　津南町観光協会　765-5585

おみやげのたかはし	見玉（お土産） 765-3928
わ ら び	見玉（お土産） 765-3816
したみちや	逆巻（お土産） 767-2007
久 田 里	結東（手打ちそば：要予約） 767-2023
蜂蜜の生蜂園	前倉（蜂蜜の生産・直売） 767-2065
へいけ茶屋	大赤沢（食堂・お土産） 767-2266
山源木工	大赤沢（伝統木工芸品・お土産・食堂） 767-2091

栄　村　栄村観光協会　767-2202

秋山郷総合センター「とねんぼ」	小赤沢（観光案内所・民俗資料室） 767-2202
楽 養 館	小赤沢（日帰り温泉・食堂・お土産） 767-2297
釜めしどん	小赤沢（食堂・お土産） 767-2210
秋山郷ゆきぐに	小赤沢（お土産） 767-2126
白禅食堂	小赤沢（お土産） 767-2162
山口屋商店	小赤沢（商店） 767-2113
北信生コン秋山給油所	小赤沢（スタンド） 767-2158
秋山なめこ本舗	小赤沢（お土産） 767-2128
福原商店	小赤沢（商店） 767-2154
栄村山菜生産組合	小赤沢（お土産） 767-2152
秋山郷保存民家	小赤沢（民俗資料館） 767-2202
みずとや食堂	屋敷（豆腐の製造・販売） 767-2325
資 料 館	屋敷（民俗資料館） 767-2192

旅館・民宿をご紹介

市外局番（０２５）

津南町　津南町観光協会　765-5585

川 津 屋	逆巻（温泉宿） 767-2001
かたくりの宿	結東（温泉宿） 767-2377
萌木の里	結東（温泉宿） 767-2000

栄　村　秋山郷観光協会　767-2202

秋 山 館	小赤沢（宿） 767-2105
丸 山 荘	小赤沢（宿） 767-2132
苗 場 荘	小赤沢（宿） 767-2136
出 口 屋	小赤沢（宿） 767-2146
光 栄 荘	小赤沢（宿） 767-2147
中 津 荘	小赤沢（宿） 767-2161
えーのかみ	小赤沢（宿） 767-2119
秀 清 館	屋敷（温泉宿） 767-2168
かじか荘	屋敷（宿） 767-2169
もっきりや	屋敷（宿） 090-5419-9606
牧之の宿	上野原（温泉宿） 767-2345
のよさの里キャンプ場	上野原（キャンプ場） 767-2345
郷 の 家	上野原（宿） 767-2220
和 山 荘	和山（宿） 767-2241
鳥 甲 荘	和山（宿） 767-2249
佐久間荘	和山（宿） 767-2247
雄 山 荘	和山（宿） 767-2250
ヒュッテひだまり	栃川高原（温泉宿） 767-2262
栃川高原キャンプ場	栃川高原（キャンプ場） 767-2262
雄 川 閣	切明（温泉宿） 767-2252
切明パーサイドハウス	切明（温泉宿） 767-2253
雪あかり	切明（温泉宿） 767-2255

協力：山本清氏(小千谷市)　野島出版　鈴木牧之記念館(南魚沼市)
栄村役場産業建設課　秋山郷観光協会　栄村観光協会
出典：野島出版刊「秋山記行」「北越雪譜」「苗場山記行」
農村文化協会刊「江戸時代人づくり風土記」
参考：信濃教育会出版部発行「秋山記行」

大秋山（おおあきやま）　天明３年 滅亡

滅亡前戸数二十戸。大秋山村は秋山郷の大元と言い伝えられていた村であり、牧之が訪れた天明二年の四十六戸前卯年の大凶作で廃村し、往時を偲んで牧之はその想いを筆に載せている。

大秋山村跡

矢櫃（やびつ）　天明４年 滅亡

滅亡前戸数二十四人。明治末期に矢櫃村を訪れた小林存は、「当時一戸残らず死に絶えた」と言い伝えられていた村の表記されている地名は「矢櫃」の此つたもので、小松内府重盛に従ってきた武士数人が矢櫃を背負ってここにきて永住したことが地名の由来だという上村慶次郎の話を紹介している。

甘酒（あまさけ）　天保７年 滅亡

滅亡前戸数二戸・四人。明治十三年に当時すべてが飢え死にし、廃村になったことを告げた。しかし、（牧之が訪れた十年後）天保七年には、この村も飢饉で廃村となる。

鈴木牧之が訪れたときには、一人暮らしの老婆の家が一軒だけだった。老婆は大秋山村が天明三年の大飢饉で全滅の後、一軒だけ生き残った。

※小林存（こばやしながろう）…新潟県民俗学会の創始者であり、まぼろしの名著「アンギン」も結東で初めて発見した。歌人でもあり、牧之に続いた時に句を詠んでいる。「五戸の里に女もあるか子もあるか日当たる軒に赤きもの干す」